



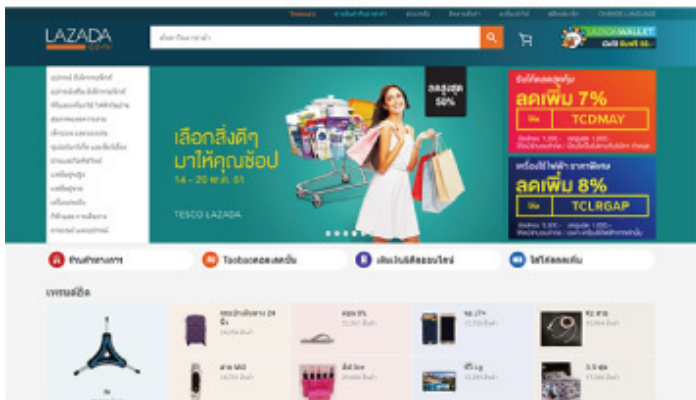
NNA (THAILAND) CO., LTD.

23/61 Sorachai Building 18 Floor, Sukhumvit 63 Road, North Klongtan, Wattana, Bangkok, 10110 Thailand
Tel : 02-392-0475 Fax : 02-392-0479 E-mail : sales_th@nna.asia

MCI(P) 033/03/2018

激戦 E C 市場に参入相次ぐ 日系が新事業を始動、撤退事例も

タイの電子商取引（E C）市場で激戦が繰り広げられている。中国のE C最大手、阿里巴巴集団（アリババグループ）が出資する東南アジア最大のE Cサイト「ラザダ」を筆頭に、過去数年で地場・外資の参入が相次ぐ中、事業撤退を余儀なくされた企業もある。年内には中国系のさらなる参入や日系による新たなE C関連事業の開始が計画され、各社が生き残りをかけた戦略でしのぎを削る。【安成志津香】



タイで最も利用されているE Cサイト「ラザダ」。連日各カテゴリーでディスカウントキャンペーンを展開している（画像は同サイトより）

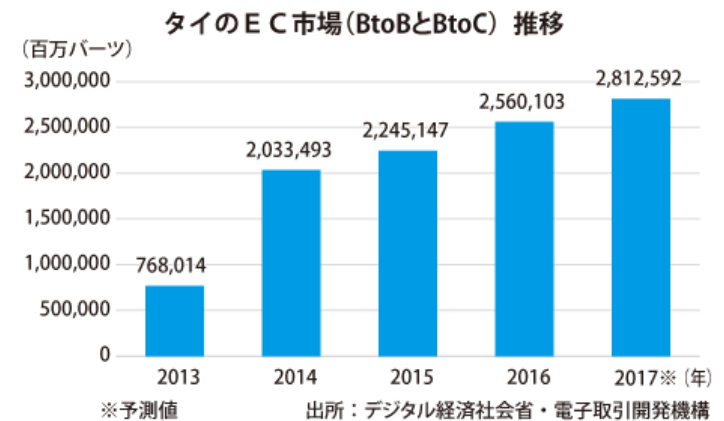
タイのE C調査会社 ecomerceIQ によると、企業・消費者間取引（B to C）のE Cサイト別の訪問件数（3月19日～4月18日）は、ラザダが4,463万件でトップ。後に続くシンガポール系「ショッピング」の1,383万件、地場のオークションサイト「チ lind」の478万件を大きく引き離している。

2012年にタイに進出したラザダはファッションや化粧品、家電製品など、国内外の約3億点を網羅し、その取扱製品幅の広さから「アジアのアマゾン」との呼び声も高い。さらに初回購入ディスカウントなどの積極的なキャンペーンを続々と打ち出し、「お得感」を好むタイ人の生活に巧みに入り込んでいる。

タイのE C市場では一人勝ちとも言えるラザダだが、ラザダ・タイランドのタニダ・マーケティング部長は「タイのE C市場の競争はさらに激しくなる」と漏らす。その上で、「今後はE C業界で課題となっている決済と物流での問題解消に取り組む」と説明する。決済面では

自社の決済システム「ラザダ・ウォレット」を通じ、システムの安全性をアピールするほか、物流面では同日配達サービスの開始を計画するなど、より一層のサービス向上を目指す方針という。

ラザダに次ぐ訪問者数のショッピイーは最近、サイト上で「ショッピイー・セレブリティ・クラブ」を設立。影響力が大きい著名人が推薦する化粧品やサプリメント、美容品などを販売し、顧客の囲い込みに力を注ぐ考えだ。



各社で赤字続く、撤退事例も

各社がブランドの認知度向上を強化する背景には、タイ事業の苦戦がある。カシコン銀行傘下の民間総合研究所カシコン・リサーチ・センターのエコノミストはNNAに対し、「E C事業各社は巨額投資の回収ができてお

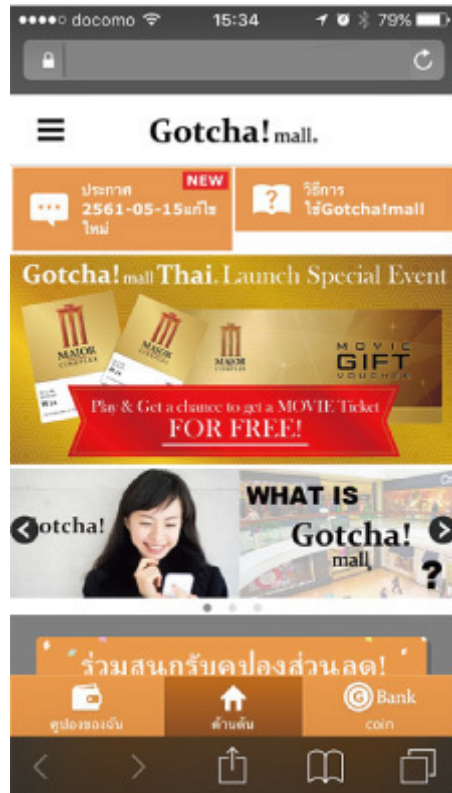
<休刊のお知らせ> 5月29日(火)は仏誕節で祝日のため、本紙の発行は休みます。

らず、赤字が続いている」と指摘。事業拡大にはマーケティングなどで多額の投資が必要となり、アリババなどの資本力を持つ中国企業の投資が活発化する流れは今後も続くと予測する。流通大手セントラル・グループは、中国インターネット通販大手の京東（JD.com）と合併で EC サイト「JD セントラル」を立ち上げる計画で、22 年までにタイの EC 市場でトップになる目標を掲げている。

過去数年には市場競争の激化から、事業を撤退した企業もある。ビジネス・プロセス・アウトソーシング（BPO）大手トランスコスモスは、地場の電子書籍大手ワークビーとの合併で 15 年に EC サイト「ワークビーモール」を開設したが、市場環境の変化を理由に 17 年に同サイトを閉鎖。地場の EC サイト「タラッド・ドットコム（Tarad.com）」に出資していた楽天は、東南アジア事業を見直すとして 16 年に出資を引き揚げた。今後タラッドは大手財閥 TCC グループの傘下となり、事業継続を図る方針だ。

実地店舗の需要取り込み

新たな角度から EC 市場を取り込もうとする動きもある。EC サイトを閉鎖したトランスコスモスは、タイでは実地店舗の販売がまだまだ強いとみて、クーポン配信により来店や販売促進を行うアプリ「Gotcha!mall（ガッチャ！モール）」を展開する計画。利用者はアプリ上で無料配布されるコインでくじを引き、抽選で参加企業のクーポンや景品を獲得できる。コンビニエンスストアやスーパーなどで新規顧客の獲得やリピート来店率の上昇を促進する仕組みで、「スマートフォンから実店舗への送客」と「実店舗からオンラインストアへの誘導」の双方向からのアプローチを狙う。



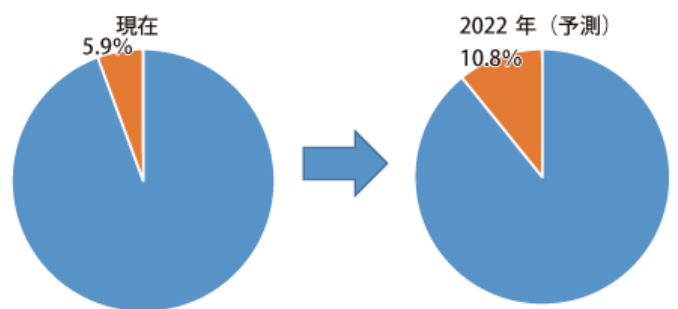
トランスコスモスがタイで開始予定のアプリ「Gotcha!mall」のスクリーンショット（同社提供）

トランスコスモスの担当者によると、まだ正式なサービス開始日は決定していないが、消費財大手サハ・グループや「セブン イレブン」を運営するコンビニエンスストア最大手 CP オール傘下の EC 事業者などと連携し、タイの 15 社 2,000 店以上で利用を開始する。20 年までに 300 万人の利用者獲得を狙う方針だ。

カシコン・リサーチ・センターの前出のエコノミストによると、タイの EC 市場は 22 年をピーク

に成長が一服し、その後減速していく見通し。その時市場に残るのは誰なのか。各社の手腕が問われている。

タイの小売市場に占める EC の割合



出所：カシコン・リサーチ・センター

Innovative Light, Bright Future

EYE IWASAKI

世界が認める、光がある。

■タイ カンボジア ミャンマー 他
EYE LIGHTING (THAILAND) CO., LTD.
+66-(0)2-662-1867 sales@elt.co.th

■ベトナム 他
本社 海外営業部アジア 開発営業課
+81-(0)3-5847-8630 kaigai_sales@eye.co.jp

■シンガポール マレーシア フィリピン インドネシア 他
EYE LIGHTING ASIA PACIFIC PTE LTD.
+65-6742-3611 support@eyelighting.com.sg

岩崎電気株式会社
www.eye.co.jp